

インドネシアの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を6.50%に引き下げ

6月16日、インドネシア中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き下げ、年率6.50%とすることを決定しました。利下げは今年4回目となります。一部の市場参加者は今回の利下げを予想していました。

また、今年8月から新しい政策金利に採用する7日物リバースレポ金利も0.25%引き下げ、年率5.25%とすることを決定しました。

さらに、銀行融資を促進するため、金融機関に課している財務上の規制等の緩和もあわせて発表しました。

ポイント② インフレ鈍化のもと経済成長を後押し

今回の利下げ決定には、インフレが鈍化し、金融政策を緩和する余地がある中、低迷する同国景気を後押しする狙いがあります。

5月のインフレ率は3.3%と、前月を下回り、同中銀の目標レンジの下限である3%に近づいています。また同中銀は、インフレ率が2016年末までに目標レンジの中央近辺で推移するとの見通しを示しています。

一方、1-3月期のGDP（国内総生産）は、資源安による輸出の低迷などを受け、前年同期比+4.9%と、市場予想を下回りました。これを受けて同中銀は5月、今年の実成長率見通しを従来の+5.2~5.6%から、+5.0~5.4%に引き下げました。このような状況のもと、同中銀は利下げを決定し、経済成長を重視する姿勢を示しました。

さらに、前日、FRB（米連邦準備制度理事会）が利上げを見送ったことなどから、インドネシアルピアの売り圧力が低下したことなども、利下げを後押ししたものとされます。

ポイント③ インドネシアルピアは下落

6月16日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、対米ドルで前日比0.6%程度のルピア安、対円で同2.1%程度のルピア安となりました。

今後の金融政策について、同中銀は「今後の動向を見守る」としているものの、一部の市場参加者は年内の追加利下げを予想しています。

図1：政策金利の推移

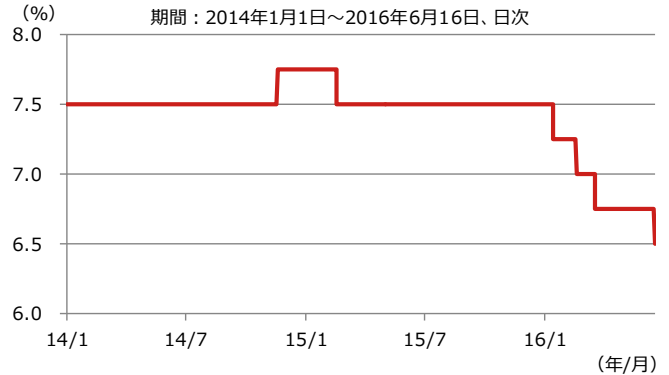


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

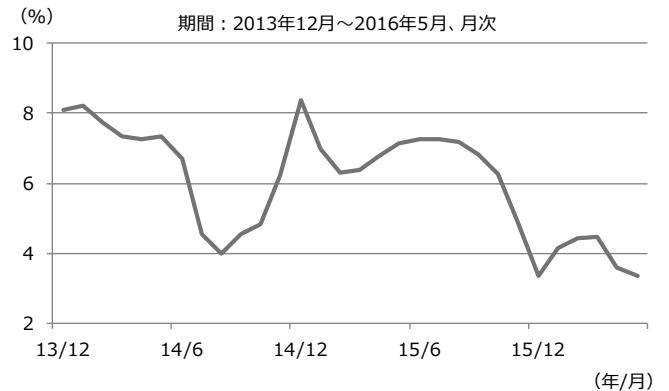


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

7月1日	消費者物価指数 (6月)
7月15日	貿易収支 (6月)
7月21日	金融政策発表